

(1♂ 9.X.1993) 下瀬加茂地(1♂ 16.VIII.1998)

以上73種を確認しているが、記録の大半は瀬加地区のもので、甘地・鶴井地区など市川町西部の調査ができていない。今後これらの地区の調査を行い分布を明らかにしていきたい。

また、明らかに生息していると思われる種のみズイロオナガシジミ・ウラゴマダラシジミなどのミドリシジミの仲間の調査、ジャコウアゲハ・スジボソヤマキチョウ・ウラギンヒョウモン・イシガケチョウも分布の可能性が高いので調査を行い次の機会に報告したい。

奄美大島の材から羽脱した カミキリムシ 花岡 正

1997年12月31日から1998年1月5日にかけて奄美大島にカミキリムシの材を採集に行き新産地、新知見があったので報告する。

* イスノキから

アマミアラカワシロヘリトラカミキリ
29.IV.1999 2♂♂, 11.IV.1998 1♂
アマミウスグロトラカミキリ
13.VI.1998 1♂, 18.VI.1998 1♂
19.VI.1998 1♂, 20.VI.1998 1♂

瀬戸内町赤土山の伐採地の林縁の新しい根際の太い幹の一部から羽脱。

* ヤンバルアワブキ

リュウキュウクリイロシラホシカミキリ
17.IV.1998 1♂ 大和村福元
19.IV.1998 1♂ 瀬戸内町赤土山
キイロイトヒゲカミキリ
5.V.1998 1♂ 大和村福元
6.V.1998 2♂1♀ 宇検村湯湾岳
3.VII.1998 1♀ 宇検村須古
27.VII.1998 1♀ 瀬戸内町瀬戸内
中央材道
29.V.1998 1♂ 瀬戸内町赤土山

5月5日から7月27日にかけて、直径1cm~5cm位

の枝から23♂♂、18♀♀羽脱した。ヤンバルアワブキはあちこちに普通に見られ海岸近くから山の頂上近くまでの産地も上記の場所から得られたのでまだまだ新産地が見つかりそう。ただ、カゴノキから羽脱したアマミルリホリヒゲカミキリが状態の良い枝だと多数羽脱するが、キイロイトヒゲカミキリはそんな様子は見られなかった。

* ホソバタブ

リュウキュウチビコバナカミキリ
28.VI.1998 1♀ 瀬戸内町赤土山
アマミホソコバナカミキリ
5.VI.1998 1♂ 瀬戸内町赤土山
7.VI.1998 1♀ 瀬戸内町赤土山

伐採地の尾根筋の林縁で上部が折れた直径15cm位の樹高2m位のホソバタブから羽脱した。樹皮はしっかりしていて、芯部に食痕があり、1999年も羽脱してきそうな様子である。

兵庫県のククイムシ類・追記 高橋 寿郎

筆者は本誌上に"兵庫県のククイムシ類"を発表して頂いた(第12号:14-29,1998)。まとめるにあたり筆者の不注意で手許にありながら見落としていた次の文献がある。即ち、故野淵輝博士のまとめられた「日本産甲虫目録, No.29, ナガククイムシ科, 3p., No.30, ククイムシ科, 32p. 1995」(甲虫談話会刊)である。一番新しいこの仲間の目録であるから当然この目録にある種として取り扱うべきであると考えて調べてみたが、若干配列の違いはあるが学名その他では間違いがなく、亜科の和名称ならびに亜科名の違っている点があったのでここにそれらを示しておく。

Subfamily Diaporinae トゲナガククイムシ亜科は Subfamily Platypedinae ナガククイムシ亜科に、 Subfamily Hylesininae カワノククイムシ亜科はヒレジニ亜科に、 Subfamily Ipininae ザイノククイムシ亜科はイピニ亜科に。

なお, p.28, 18. *C. jeholensis* Murayama, 1939 は *C. jeholensis* Murayama, 1939 に訂正して下さい。